



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天象. 天界 1936, 17(189): 123-124

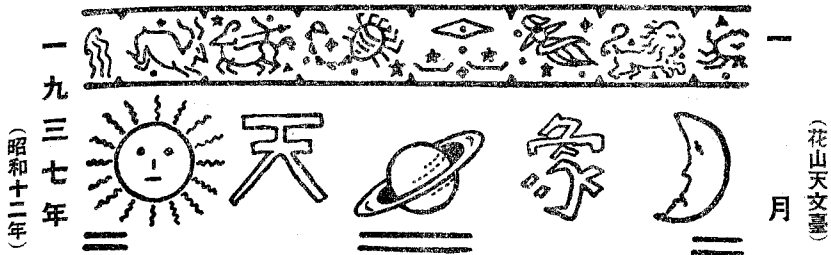
ISSUE DATE:

1936-12-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167387>

RIGHT:



I——太陽と月 (京都に於る値)

日附	日出 日没 (星 座)		日附	月 齢	月 出	月 没	(星 座)
				(正午)			
日	時 分	時 分	日	日	時 分	時 分	
1	7: 5	16: 56	1	18.1	21: 24	9: 34	(獅 子)
6	7: 6	16: 59	2	19.1	22: 23	10: 3	" "
11	7: 6	17: 4	3	20.1	23: 21	10: 32	(乙 女)
16	7: 5	17: 8	4	21.1	—	11: 0	" "
21	7: 3	17: 13	5	22.1	0: 17	11: 28	" "
26	7: 1	17: 19	6	23.1	1: 14	11: 59	(天 秤)
31	6: 57	17: 24	7	24.1	2: 10	12: 34	" "
			8	25.1	3: 6	13: 13	(さそり)
			9	26.1	4: 2	13: 57	(蛇 遣ひ)
			10	27.1	4: 55	14: 46	(射 手)
			11	28.1	5: 45	15: 42	" "
			12	29.1	6: 31	16: 41	" "
			13	0.4	7: 12	17: 43	(山 羊)
			14	1.4	7: 49	18: 47	" "
			15	2.4	8: 23	19: 51	(水 瓶)
			16	3.4	8: 56	20: 55	" "
			17	4.4	9: 27	22: 0	(魚 )
			18	5.4	9: 59	23: 6	" "
			19	6.4	10: 34	—	( 羊 )
			20	7.4	11: 11	0: 14	" "
			21	8.4	11: 55	1: 23	(牡 牛)
			22	9.4	12: 44	2: 31	" "
			23	10.4	13: 41	3: 36	(双 子)
			24	11.4	14: 44	4: 37	" "
			25	12.4	16: 0	5: 30	" "
			26	13.4	16: 58	6: 16	(か に)
			27	14.4	18: 3	6: 56	(獅 子)
			28	15.4	19: 7	7: 31	" "
			29	16.4	20: 8	8: 2	" "
			30	17.4	21: 7	8: 31	(乙 女)
			31	18.4	22: 5	9: 0	" "

II——天象

日 時	現象	日 時	現象
1, 23	地球が近日點	13, 27	新月
5, 22	水星が停留	13日, 27日	1時: 47分, 2時: 15分
6, 13	火星が月と合(北6°)		
12, 1	木星が月と合(南1°)		
13, 11	水星が月と合(南0°)		
15, 7	水星が内合		
16, 23	金星が月と合(南6°)		
17, 13	土星が月と合(南8°)		
26, 14	水星が停留		

下弦 4日, 23時: 22分  
上弦 20日, 5時: 2分

新月 13日, 1時: 47分  
満月 27日, 2時: 15分

主な流星群

日 附	赤緯	赤緯	附近の星	性 質
1日——6日	230°	+52°	龍 座	速顯著
29 日 頃	213	+52	牧夫座北部	甚 速

## 遊 星 界 (1 月)

**水星** 山羊座の西端から東進し、5日には留となり、月末まで西進し、26日には射手座の東北部で再び留となる。即ち、年頭の夕空に見えるだけ。その頃の光度-0.1等。

**金星** 去年冬から夕の西空に親しまれてゐる「宵の明星」である。山羊座の東部から春分點の近くまで東進をつづける。地球に段々接近して來るので、光度も増し、月末には-4.0等として輝く。

**火星** 暁の星であるが、2時頃には東に昇るやうになつた。乙女座の東部にあつて、その赤色をスピカの青白色と競ひつゝ、東進して天秤座に入る。光度も強くなつて、月末には標準1等星。

**木星** 去年末太陽と會合の位置になつたので、當分觀望不能。位置は射手座。

**土星** まだ宵星として、鉢巻を忘れた愛嬌をふりまいてゐる。水瓶座の東端にあつて動かない。金星が高くなるにつけ、24日には兩星が接近する。光度+1.4等。淋しい水瓶座を賑はしてゐる。

**天王星** 宵の星。位置は羊座の南部。6等星。

**海王星** 獅子座の東部にあり、夜半に昇る。光度8等級。

**冥王星** 蟹座の西端に、悠久な運行をつづけてゐる。光度15等級。

×                      ×                      ×                      ×

**星座** 空氣も凍るやうな嚴冬の空の美觀!! 星を覺えるのは夏の夕涼に限つたことではない。外套と襟巻に身仕度よろしく、大宇宙を仰ぐ心地は星を知る者のみに許された特權である。

春分點を守るペガソス、水瓶、鯨、魚の諸星座が或は逝き、或は老を告げると、プレヤデスを天頂に持つて、三角、羊の愛らしい星座から、オリオン、馭者、双子、大犬、小犬の諸星座が天上に亂舞してゐる。それ等を貫流する銀河も夏の七夕のロマンスと全く異つた雄大な詩趣を與へてくれる。内地でカノープスに接するものこの頃で、あれよあれよといふうちに北斗七星はもう高くのぼつてゐる。盛なる哉!! (淡翠山人記)